

『筋肉量の低下は肝疾患の予後を悪くする』

肝臓川柳 『筋肉を 歩いて維持へ 肝のため』



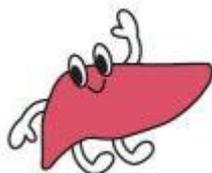
.....ノノノノノ

以前もご紹介しましたが、筋肉は“第2の肝臓”といわれるほど、肝疾患患者にとって大変大事です。

肝硬変患者では、筋肉がエネルギー源やアンモニア処理に使われてしまい、筋肉量が減少する“サルコペニア”という状態が合併しやすく、第3腰椎レベルの骨格筋面積をCTで測定すると一目瞭然に分かります。

サルコペニア（筋肉減少）があると、ない場合に比し、肝硬変患者の生存率が有意に低いのみでなく、肝移植術後や肝切除術などの肝細胞癌治療後の予後、さらにはソラフェニブ（肝細胞癌に使用する分子標的薬）の副作用予測にも関わると報告されています。

栄養療法とともに適度な運動により筋肉量を低下させないことが大事だとされていますが、筋肉の約7割は下半身にありますので、ウォーキングなどが有効と思われます。



これだけ覚えておけば損はない！

今 回 の ポ イ ン ト

筋肉は第2の肝臓ともいわれるほど肝疾患患者にとっては重要で、筋肉減少があると、肝硬変患者の生存率が低い、肝細胞癌治療予後の差、ソラフェニブの副作用予測にも関わるなどの報がある。

その為筋肉量を低下させない事が大事だとされています。

(文：福井県肝疾患診療連携拠点病院運営委員会 野ツ俣 和夫)